

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791400031		
法人名	合同会社らんらん		
事業所名	グループホームらんらん		
所在地	沖縄県国頭郡今帰仁村字崎山128-4		
自己評価作成日	令和 2年 1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=4791400031-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205
訪問調査日	令和2年 2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症によって自立した生活が困難になった利用者に対して、家庭的な環境の下で、食事・入浴・排泄等日常生活の中での心身の機能訓練を行うことにより、安心と尊厳のある生活を、利用者がその有する能力に応じ、可能な限り自立して生活を営むことが出来るように支援しています。

地域の行事(清掃作業・スポーツ大会等)に積極的に参加し、交流を図っており、地域行事や通院等の際に、地域の方から認知症についての相談や入所の相談を受ける機会が増えており、また、直接、ホームに来られて相談される方もおられます。入居者の家族や地域の方からの野菜や果物等の差し入れもいただく機会が増えてきており、地域とのつながりが広がってきているように思います。

ホームの裏の土地をご厚意により無償で貸していただき、無農薬野菜づくりによって採れた野菜がホームの食卓で利用者に食され、好評を得ております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、介護や福祉に従事し豊富な経験を有する親族が結集して、「親や将来の自分たちが入りたいと思う施設」を目指し、行政や地域の理解と協力を得て、閑静な集落に地域密着型サービス事業所として開設し、3年が経過している。事業所は、開設当初から自治会に加入し、地域の一員として祭りや定期清掃等の諸行事に積極的に参加するとともに事業所へも地域住民が介護相談や野菜等の差し入れで気軽に立ち寄る等、日常的に交流している。食事は、利用者の希望や地域の新鮮な食材を取り入れ、3食事業所で調理して品数も豊富で陶器に彩りよく盛りつけられ、利用者から「外食より美味しい」と高い満足が得られている。利用者は日常的に散歩等に出かけており、車椅子対応車両等を使用して北部地域はもとより、南部地域への遠出も支援している。職員は、利用者の食事や入浴、就寝時刻、外出等、日常生活全般にわたって利用者の意思やペースを尊重し、利用者本位の支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和2年3月30日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あなたの想いに気づき」「思いやりの心を持ち」「安心して暮らせる生活」の3つを理念にかかげ、月1回のミーティングで職員が共有できるように、復唱している。	開設時に行政の助言を受けて全職員で作成した事業所の基本理念は、運営方針とともに玄関や事務室等に掲示し、周知している。理念は、職員採用時に説明し、毎月の職員会議で唱和して共有している。事業所は、理念に沿って、積極的に地域との交流に努め、利用者一人ひとりの思いやペースを尊重した暮らしの支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、行事に積極的に参加している。(地域の清掃活動やスポーツ大会等) また、ホームでのクリスマス会に、地域に参加を呼びかけ、老人会の方々が参加されている。	開設当初から自治会に加入し、区の祭りや清掃等の諸行事に参加するとともに、区長や住民が運営推進委員となり協力を得ている。利用者の散歩時は住民から野菜等の手土産を持たされる他、農産物や海産物の差し入れもあり、その際に事業所の畑の野菜をおすそ分けする等、日常的に交流している。事業所行事には老人会等住民の参加があり、認知症や介護保険に関する住民からの相談等にも対応している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加することで、公民館行事や通院時に地域の方から「認知症」の相談を受けることがあります。ホームへ直接相談に来られる方もおられます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員のメンバーには、今帰仁村役場の職員や崎山区長、また、開設に当たって土地を譲っていただいたり、役場等への働きかけにご協力をいただいた方を地域の代表として加わっていただいている。	会議は、おおよそ2か月毎に開催しているが、年6回の開催には至っていない。会議には、行政や利用者は毎回参加しているが、知見者と兼務の家族代表者は半数の参加となっている。会議では、利用者や活動状況の他、外部評価結果を報告し、委員と意見や地域の情報交換等が行われているが、事故・ヒヤリハットの報告はなく、議事録、及び外部評価結果も公表されていない。	運営推進会議については、2か月に1回で年6回以上の開催と事故・ヒヤリハットの報告、及び議事録や外部評価結果の公表が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を開催するにあたり、村の職員が会議に参加できるように配慮していただいており、ホームの紹介等もしていただいている。今後も、ホームの状況を随時連絡し、村の窓口相談に来られた方に、ホームの状況を伝えていただき、紹介していただけるような協力体制に取り組んでいる。	行政担当者とは、運営推進会議やケアマネージャー会議等に参加し、情報交換をしている。行政に空き状況を報告して待機者情報を得る他、事業所の課題等を相談し、助言を受けている。事業所が対応した地域住民からの介護相談を行政に繋げる等連携し、行政からの地域高齢者の緊急避難受け入れ依頼にも対応できるよう協力関係を築いている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年3月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に身体拘束はしないということを、重要事項説明書に記載しており、また、ホームとしての身体拘束等適正化のための指針を作成し、職員一人ひとりが身体的・精神的弊害を理解し、拘束廃止に向けた意識を持ち、身体拘束をしないケアの実施に取り組んでいる。	身体拘束をしないケアの方針を掲げ、利用開始時にリスクを説明している。玄関等は施錠せず、一人で外出する利用者には、家族や地域住民と連携して拘束しないケアを実践している。身体的拘束等の適正化の指針を作成し、身体的拘束等適正化委員会を運営推進会議に充てるとしているが、「やむを得ず身体拘束が必要となった場合、会議に諮る」とし、委員会の開催記録や定期的な職員研修の実施は確認できなかった。	平成30年度より、身体的拘束等の適正化の方針が定められており、身体拘束の有無に拘らず、3か月に1回以上の適正化検討委員会の開催、及び議事録の整備と職員への周知、定期的(年2回以上)な職員研修の実施が望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ホームが利用者にとって安心と安全の場所であることを大切に考えており、利用者とのコミュニケーションを図りながら、利用者のご希望に沿った支援ができるように努めている。	職員は、長年、介護や障害福祉に従事し、虐待防止について周知している。職員は、利用者の認知症による行動や心理症状の理解に努め、利用者への対応方法等を話し合い、感情的な言葉遣いや不適切なケアにならないよう努めている。虐待防止マニュアルが未整備で、定期的な研修も確認できなかった。	高齢者虐待防止関連法を含め虐待防止に関する職員研修を定期的(年2回以上)に実施するとともに、虐待防止マニュアルを整備し、職員への周知徹底が望まれる。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホームを設立する前より、権利擁護については学んできたが、今後も、職員会議等の場で職員と話し合いながら活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約に当たっては、利用者様にホームの見学や試し入所していただき、利用者様の入所の確認をいただいた後に、重要事項説明書に沿って、利用者様やご家族に十分な説明を行い、納得していただいたうえで、契約書にサインしていただき、入所していただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様には、ご意見箱を常設して、ご意見・ご要望をお聴きしている。また、運営推進会議に利用者様及びご家族様の代表者として参加していただき、ホームの活動状況等の説明やご意見をお聴きする機会を設けている。利用者様が楽しみにされている、外出については、利用者様の希望を聴きながら計画を立て実施している。	利用者の要望等は、日々の支援の中で聴き、「船に乗ってみたい」や「遠出がしたい」、「畑仕事ができる」等の声に、伊江島や南部観光等を実施したり、菜園を設ける等に対応している。家族からは、意見箱を設置し、面会等でも聴いているが、事業所への感謝の声が多く、運営推進会議で「家族も利用者の誕生会に参加したい」との声があり、対応されている。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和2年3月30日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月に1回以上開き、職員の意見や提案を聞く機会としている。	職員意見は、毎月開催の職員会議等で聴いている。職員から「外出用の車椅子や備品を収納する倉庫」や「安全対策としての防犯カメラ」の設置が提案され、環境整備が行われている。「車椅子対応車両の購入やリース」の意見にも対応し、利用者の外出や余暇活動の充実に反映されている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々が、働きやすい職場をめざし、職員個々の「やりたいこと」の希望を聴き、話し合いを持って、職場環境の整備に努めている。	労働条件通知書が作成され、勤務形態や休日・休暇、賞与や手当等を明示し、契約書を交わしている。健康診断は、昼夜の勤務形態に関わらず全職員、年1回の実施となっている。年次有給休暇の取得や勤務シフトについては職員の希望を聞いてシフト作成に反映し、介護福祉士や介護支援専門員等の資格取得には、費用負担や勤務調整を行う等配慮している。	職員の健康診断は、労働安全衛生法に則って、夜勤を定期的(週1回以上)に行う介護職員には、年2回の実施が望まれる。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が利用者との関わり方で悩んだ時には、経験豊富な職員にいつでも相談できる状況・環境づくりに取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所を立ち上げるにあたり、管理者の研修等の受け入れをしていただいた。また、支援等についてのアドバイスをいただいております。サービスの質を向上させていただいている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所にあたっては、家族による入所希望だけではなく、本人にも施設を直接見ていただき、必要ならば、体験入所も行いながら、入所していただいている。また、日常生活において、本人の困っていることや不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和2年3月30日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事や不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めており、家族には出来るだけ面会に来ていただき、利用者の様子を見ていただきたいと願っている。面会の際に感じたことや、ご要望等を聴かせていただき、家族との信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所契約にあたり、本人と家族等には、要望等について話し合いを持つとともに、面会時等にも、本人や家族の要望を聞かせていただくことにより、必要としている支援を見極め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来る事(洗濯物をたたむ等)を、利用者に手伝っていただいている。また、利用者も持っている色々な知識等について、職員が、教えていただくという態度で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へは、いつでもいいので、面会に来て、利用者の様子を見ていただくことにより、利用者の心の安定を図り、安心して生活出来るように、また、要望等を聞かせていただき、サービスの向上に努めたいので、是非とも、面会に来ていただきたいということを、常にお願している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの方や場所等との関係を大事にし、関係が途切れないように、職員が連絡を取り面会にきていただいたり、必要ならば職員の送迎により、関係が途切れないように、支援に努めている。	利用者のこれまでの暮らしの情報は、本人や家族、地域の人等から把握している。利用者は、日常的な散歩や自宅への立ち寄りの他、地域の諸行事に参加し、馴染みの人との交流を継続している。ドライブで出身地域や働いていた場所に出かけ、友人を訪ねる等の支援をしている。家族と馴染みの理容室やスーパーで買い物をしたり、職員と馴染みの美容室に出かける利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和2年3月30日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地域密着型のため、利用者同士が知り合いであることも多く、会話の中で共通の話題等もあるので、そうした機会を捉えて、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援が行えるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所理由としては、本人が入院等により、家族の希望で退所されたケースであり、契約が終了してからも、入院先に面会に行き、本人にとっても喜ばれたことがあったが、必要に応じて、本人や家族の経過をフォローし、相談や支援に努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意思の把握に努め、困難な場合には、本人や家族と話し合いのうえ、本人の本位が叶うように努めている。	利用者の思いや意向は、入浴時や居室で1対1になった時にゆっくりと話を聴いて把握している。利用者からの「家に帰りたい」や「家族に電話したい」等の声を介護計画に位置付け、外出支援を行ったり、家族へ電話をする等対応している。把握が困難な場合は、利用者の発語に注意し、行動を観察して把握している。利用者の好みは読書や映画、沖縄芝居だと気づいた職員が、図書館で本やDVDを借りてきて余暇活動に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等にお話を伺いながら、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との普段の会話の中で、一人ひとりの1日の過ごし方や心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。		

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和2年3月30日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画者(ケアマネ)が介護計画を作成し、職員会議等で話し合いを持ち、情報の共有を図りながら、現状に即した介護計画を作成している。	担当者会議には、利用者や家族、計画作成担当者、介護職員が参加し、意向を確認して介護計画を作成している。計画は、長期目標を半年から1年、短期目標を3か月から半年と設定している。毎月職員会議で利用者毎の支援状況を確認し、3か月毎にモニタリングを実施している。計画は1年毎に見直し、変化時は随時に見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の様子やケアの実践・結果・気づき等について、業務日誌(個人別記載)に記入し、職員間で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして、利用者代表や利用者家族の代表に出席していただき、ニーズの把握により、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事には積極的に参加し、地域資源を利用して本人が心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう、また、事業所も地域資源の一つとして利用していただけるよう、事業所の行事(クリスマス会等)にも地域の方々に参加していただけるように心がけている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医療機関(今帰仁診療所)への受診や利用者のかかりつけ医への受診を行っている。	利用者は全員かかりつけ医への受診を継続している。受診は、利用者2名については、忙しい家族が月に一度の受診時だけでも面会に来ることができるように家族対応としているが、その他の利用者については、他科を含め事業所が支援している。受診後の利用者の状態や服薬等の情報は、家族の来所時に直接、または電話等で伝えている。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年3月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護師の配置が無いため、地域の協力医療機関の医師や看護師に相談し、適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時には、家族とともに、職員も面会等を行い、利用者が安心して治療できるように努めており、病院関係者とも連絡を取り合い、情報の共有による関係づくりを行っており、利用者の中には、病院からの紹介で入所された方もおられます。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針(看取り)については、家族へは契約時の重要事項説明書にて説明はしているが、看護師の配置が無いので、緊急の場合には、近隣の医療機関に搬送するしかできないので、その辺を家族には説明し、他の施設への変更も含め、話し合いのうえ、方針を決定している。	看取りの指針が整備され、ほとんどの家族には利用開始時に説明しているが、利用開始時の説明を希望しない家族には後日、指針を説明し、承諾を得ている。現在は医療機関等への紹介をして、重度化や看取り等の取り組みはしていない。将来に向けて職員間で、過去に「職場での看取り」やケアマネージャーとして「自宅での看取り」の経験のある職員を中心に、チームとして看取りについて話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的ではないが、職員会議の際に、応急手当や初期対応の話し合いをしている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策等については、職員会議の際に検討・確認している。また、避難訓練の計画・実施をしているが、利用者が高齢者(認知症の方や車椅子の利用者が多い)のため、普段の会話の中で、意識の向上を図っている。今帰仁村防災マップを掲示し、全職員に周知するようにしている。地域との協力体制については、地域の防災訓練は実施していないとの事であるが、非常時の協力体制等の構築に努めていく。	避難訓練を年に2回実施しているが、昼夜想定が明示がなく、訓練時は地域住民の参加が得られていない。備蓄については、職員を含めた全員の3日分の水や食料がすぐに取り出せる状態で整然と保管されている。災害対応マニュアルは、火災と地震は整備しているが風水害は含まれていない。	災害発生時に利用者を安全に避難誘導できるように、訓練への地域住民の参加と、あらゆる災害に対応できるようにマニュアルに風水害の追記が望まれる。また昼夜を想定した年2回の避難訓練の実施に期待したい。

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和2年3月30日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシー保護に努めている。それぞれの部屋については、利用者のスペースということで、他者が勝手に部屋に入る事は禁止(利用者・職員共に共通認識の下で)している。 また、言葉かけ等についても、配慮している。	「事業所の都合による決まりで利用者に不自由な思いをさせたくない」との思いから食事や入浴・就寝時刻・外出等日常生活全般にわたって、利用者の人格やプライバシーを尊重できる支援を目指している。そのための言葉かけや対応等を職員同士で絶えず話し合っている。「個人情報保護方針及び利用目的」は、契約時に重要事項説明書で説明して同意を得ているが、公表には至っていない。	「個人情報保護方針及び利用目的」については、掲示が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意見箱を設置して、いつでも本人の思いや希望の表明が出来るように努めている。外出先や食事等の希望については、利用者に聞く機会を持ち、計画の立案や実施をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事時間・就寝等については、本人の意志を大切にしつつ、健康状態等は常に把握し、十分な睡眠の確保が出来るようにしながら、本人の希望に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやオシャレが出来るように支援しており、本人の希望により、美容院や理容院に送迎している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に準備をするということではできないが、メニューの希望を取り入れた食事を提供するようにしている。また、外出時には、外食の機会を設け、好みの食事が摂れるようにしている。	対面式の厨房で準備された食事は、十分な分量と最低6品は提供するという吟味された献立であった。食材は、利用者とスーパーで買い物をする他、事業所の菜園で収穫した野菜や住民からの差し入れの新鮮な野菜を使用している。献立は、豚足・フライドチキン等利用者の希望するものはなんでも取り入れ、朝食にパンを希望する利用者には対応し、おやつも工夫を凝らしている。利用者も職員も磁器の茶碗に、朱と黄色の沖縄独自のお箸を使用している。	

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年3月30日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や 力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援を心 掛けている。(誤嚥が心配な方には、トロミやミキ サー食の支援を行っている)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応 じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態に気をかけ、声掛けや 本人の力に応じた口腔ケアの支援を行ってい る。(義歯の手入れや健康体操等)利用者の歯 科治療は、近隣の歯科医療機関で行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人 ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活か して、トイレでの排泄や排泄の自立にむけ た支援を行っている	排泄に失敗しても、「大丈夫だから」と伝え、失 敗したらシャワー浴をしていただき、場合によ っては、職員が洗浄等に支援を行っている。また、 オムツを使用されている方についても、本人の意 志により、トイレに行けるように支援を行ってい る。	排泄については、利用者の約半数が自立し、全介助 の利用者以外は、定時に声かけし、トイレでの排泄を 支援している。トイレで1時間以上便器に座っていた 利用者に配慮し、新たに小用便器の設置や自室に ポータブルトイレを置くことで安心して過ごせるよう な事例がある。日中は、あえて紙パンツを希望する 利用者には、清潔保持を念頭におきながら本人が納得 できるような支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食 物の工夫や運動への働きかけ等、個々に 応じた予防に取り組んでいる	入所前から、ほとんどの方が便秘のため、必要 な方については、医師と相談の上、服薬を行って いる。また、水分を摂っていただくよう支援を行っ ているが、利用者の中には、味の付いた飲み物 を好み、他の水分を摂りたがらない方もいるの で、繰り返しの声掛けにより、水分を摂ってもら うように取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて 入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日 や時間帯を決めてしまわずに、個々にそ った支援をしている	入浴日は、特に設定しておらず、本人の希望でい つでも入浴できるようにしている。一時期、簡易の浴槽 を設置したことがあるが、利用者がシャワーのみで良 いとのことで、安全面も考慮して、今は、シャワーのみ を使用している。シャワー浴は、職員の入浴介助によ り、ほぼ毎日実施している。利用者の状態によっては、 声掛けのみで、ご自分で入浴され、見守りのみの方 もいます。	入浴の時間や順序を利用者が決めている。個人に応 じた水温や洗う順序を職員が把握して支援している。 入浴介助を拒む利用者には、洗い残し等を発見しても 利用者の誇りに配慮し、清拭等で対応している。命令 口調の利用者には根気強く見守りを実施し、自力で できるよう利用者の残存能力を活かす取り組みをして いる。男性利用者には同意を得て異性介助もあるが、 女性利用者は全員女性が介助している。	

自己評価および外部評価結果

確定日: 令和2年3月30日

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の掃除や片付け等については、本人の許可の下で職員が行い、安心して気持ちよく眠れるように支援している。また、午睡を推奨しており、休息していただけるように支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院は、職員が付き添って行い、薬の受け取りに当たっては、職員が薬の目的等について、医師や薬剤師から話を聞き、薬の管理を含め、服薬の支援を行っている。ご家族による通院の場合には、ご家族より薬の目的等を引き継いで、薬の保管及び服薬の支援を行っている。	日常生活を観察する中で、長期にわたる服用薬の必要性に疑問を感じた職員が主治医に様子を伝えたと、服薬回数が減った利用者が2名いる。職員の連携で開設以来、誤薬事故は発生していないが、「服薬支援マニュアル」を確認できなかった。	利用者の安全な服薬支援に向けて、「服薬支援マニュアル」の整備と職員への周知が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の方々は外出を楽しみにされている方が多いので、本人の希望等も聞きながら、外出の機会を設定して、気分転換等の支援をしている。また、外出の際には、外食の機会を設けて、嗜好品を食する機会を持つように努めている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	車椅子の利用者も多く、本人が外に出たがらない方もいるが、外出を楽しみにされている方も多いため、本人の希望を把握して、外出の機会を設定し実施している。また、健康のためにも、自ら、ホームの近辺を散歩されている方もおり、支援していきたい。	散歩がてら自宅に頻りに立ち寄り地域出身の利用者が、事業所に戻ってくる際に近所の人から胡瓜やカボチャなどの手土産をもたされることがよくある。暑さや寒さの厳しい季節には、居間と連続したウッドデッキから事業所の畑を眺めて外気浴をしている。新たに車を購入したり、リースしたりして、中南部へのドライブや外食等、外出の機会を多くもてるように取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金については、本人の自己管理で所持している。ホームでは、5千円を預かって、本人の希望する物の購入や通院等での必要経費を支払っている。 また、外出時に本人の希望の物を買われる際の経費に充てている。		

自己評価および外部評価結果

確定日:令和2年3月30日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会は、時間設定は設けずに、本人及びご家族の希望で、随時実施している。また、ご自身で携帯電話を所持され、自由にご家族等と連絡をされている。ご家族等からの電話等については、本人に取り次いだり、希望により職員がご家族に連絡して、面会に来ていただいたり、直接ご本人とご家族がお話していただくようにしている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて、共用空間(ホール)に飾りつけ(クリスマスツリー・雛人形・花等)を行っている。	居間は明かり取りの窓が設置されている高い天井から自然光が入り、風通しのよい開放的な設えになっている。居室も含めてオーク調の腰壁と木製の手すりがあり、居間から緑豊かな戸外とつながるデッキを見渡すことができる。目や肌で季節を感じることができる居間で食後に新聞を読んだり、自分で血圧を測定している利用者がいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段の過ごし方としては、共有空間(ホール)での大型テレビ(65型)を見て過ごされているので、放送番組だけではなく、ライブラリーでDVDを借りて、沖縄芝居等を見る機会を設けている。また、午前10時頃より、カラオケ機器を利用して、体操(ラジオ体操・ゆったり体操・パタカラ等)を行った後にお茶としている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人が自由に使えること(火器等危険な物の持ち込みを除く)を基本にしており、他の者(他の利用者・職員)が勝手に部屋に入る事を禁止(利用者・職員共通理解)しており、部屋の掃除等についても職員が本人の許可を得て行っている。	携帯電話を持ち居室で充電している利用者が2名、テレビを持ち込んでいる人が2名、ラジカセで好きな番組を聞いている利用者が1名いる。利用開始前に自分で描いた絵をベッドサイドに掲げている利用者もいる。お洒落に気をつかう女性利用者の居室のクローゼットには、お気に入りのものと思われる洋服がびっしりかけられていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが自分の力で行う事(他の利用者に危険が及ぶようなことを除く)が出来ることについては、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように支援したいと考えています。		